



農林水産大臣賞

年間13万人を漁港に集客  
観光漁業で浜の楽しみを提供  
多彩なサービスで所得向上



### 田尻地区 地域水産業再生委員会 (JF 田尻)

日曜朝市や漁業体験、海鮮BBQなどを運営し、観光漁業を複合展開する。「様々な形態による魚の販売と魚食の普及活動」をコンセプトに事業を構築し、都市型漁業を推進した。

①日曜朝市の様子 ②養殖カキ ③漁業体験の様子 ④多くの集客に成功した海上釣り堀場 ⑤日曜朝市で販売される魚介類 ⑥海鮮BBQの一形態としてカキ小屋を展開した ⑦シラス ⑧海鮮BBQ場の様子 ⑨漁港区域で運営しているマリナ事業

#### 関西国際空港の対岸に位置し 小型漁業を中心に営む

関西国際空港の対岸に位置する、大阪府泉南郡の田尻町。小型漁業を中心とする田尻地区は、地先の沿岸漁業への依存度が高かった。このため、関西国際空港をはじめとする埋め立ての影響を受け、漁獲量は急激かつ大幅に減少した。これにより、同地区では早い段階から漁業経営の構造改革に取り組んできた。

1994年頃よりJFが中心となり、朝市、体験漁業、海鮮BBQ(バーベキュー)など多彩な直売メニューを提供し、観光漁業の事業を複合的に展開して、漁業者の収入と漁港・漁協経営を

下支えしてきた。

#### 日曜朝市の拡大と漁業体験を推進

漁港で開催している朝市は、毎週日曜日の午前7時から12時まで、漁業者の直売と商人店舗の協働により40店舗以上が出店している。

漁業者による鮮魚などの販売促進、店頭調理によるライブ感の演出、インバウンドに対応するため商品の一部やパンフレットに外国語表記を加えるなど、日曜朝市の拡大と強化を図り、来場者数を増やした。

また、漁業体験事業の強化を推進した。漁業体験は、4月から11月まで開

催し、刺網漁やカゴ漁の体験、クルージング、漁獲物の海鮮BBQなどを提供している。地域の小学校をはじめ、校外学習などにも頻繁に利用されており、これらの取組の広報や営業にさらに注力した。

#### 海鮮BBQを通年開催し海上釣り堀の集客に成功

海鮮BBQのコーナーは、食生活改善活動など地域の各種団体活動にも活用されており、JFでも「いかなごぎ煮教室」など、地域との交流事業を実施した。荒天時や冬季においても営業ができるよう施設を開閉型にリニューアルし、営業期間外であった12月

から3月までは、カキ小屋を運営することで通年営業を可能とした。

また、海上釣り堀事業の拡大を図った。当初は、しけの時に漁業体験に替わる場として設置していたが、釣り堀の対象魚を養殖魚にして、魚の調達に力を入れる。そして、海鮮BBQ事業と組み合わせることにより、集客を増やすことに成功した。

#### 漁業の新しいあり方を構築する

この他、ヨットやモーターボート、水上バイクを受け入れるマリナ事業や水上バイク艇庫事業も行っている。これらの複合事業によって、年間約13万人を漁港に集客している。同地区

が実施している観光漁業の取組は、町の重要な観光政策となっており、浜の活性化はもちろん、地域の発展においても重要な存在となっている。

同地区の取組は、漁村地域における滞在型旅行の「渚泊」の一環にもなっており、地元宿泊施設、連携して活動している農業などの発展や、魚食を普及する教育にも寄与している。

観光客の誘致や漁業・漁村文化体験、6次産業化を30年以上前から取り組み、収入を向上させる漁業の新しいあり方を構築した、全国の浜の模範となる先進的な事例である。

#### 表彰選定委員会でのコメント (一部抜粋)

「今注目されている海業という観点から、漁業そのものを軸とし観光産業と連携している。漁業の将来のあり方の一つを示唆するようなモデル事例である。」  
「地域を活性化させている。漁業をベースに周辺産業を回して地域を活性化させていくというとても魅力的な事例である。」

#### 再生委員会 情報

- 委員会名：田尻地区地域水産業再生委員会 ●代表者：西浦 栄一
- 構成メンバー：JF 田尻、田尻町、大阪府 ●対象地域：JF 田尻、田尻漁港区域及びその関連地域
- 対象漁業：底びき網、囲刺網、流網、刺網、たこぼ、ひきなわ、かご、潜水器、シラスウナギ

#### 浜プラン詳細

